

## 「小学校低学年でなぜ植物ハキダメギクの観察をとりあげるか」

中谷 治代

### 1. 生物学習の助成のしかたの基本

生物学習の助成の場合、次のような進め方が基本であると考ええる。

第1段階は、「子ども・若者がその身にそなえている知識・考え方、行動のしかたを基礎にして生物存在の基本法則を見つける。」

第2段階は「その生物存在の基本法則と思っものをいろいろな生物について検証し、確かに基本法則であるかどうか検証をする。」

第3段階は「それを手がかりにして生物の存在している状態を明らかにしてゆく。」

この場合の生物の存在状態を明らかにするというのは、どの生物も基本法則に則して生存しているが、どの生物もちがっていて、そのことによって共存しているということである。ただし実際は、子どもたちが第2段階と第3段階の学習を同時進行的に進めることになる。

### 2. ハキダメギクの学習に関係した中心となる生物の基本法則を明確にする。

「生きている」・「生きつながり」

#### a. 生物の「生きている」とはどういうことかをはっきりさせる

どの生物も、「生まれ、育ち、殖え、そして死ぬ」

#### b. 「生きつながり」とは

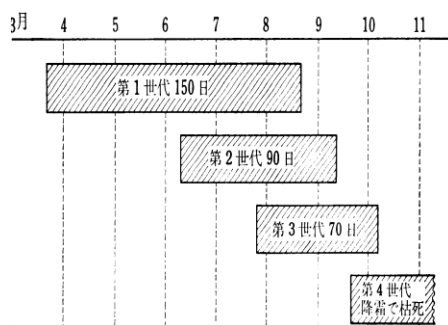
‘前世代の個体群から後世代の個体群に交代する時、後世代の個体群を構成している個体の数が、前世代の個体群を構成している個体の数と同じであった時、その個体群は持続する。

### 3. なぜハキダメギクの観察学習がこのような学習にとって大きな意味があるのか、その根拠。

#### a. 学齢における学習が適切か。

#### b. 植物ハキダメギクはどんな植物か。

#### c. ハキダメギクの「生きている」、「生きつながり」が、具体的にどこにみられるか。



ハキダメギクの年間における世代数 (宇佐美 洋三) 一部改変

写真：ハキダメギク 市川市